

和田明子議員の2月県議会での質問と答弁の要旨を紹介します。一般質問、答弁の全文はホームページの**議会の様子**から、質問の動画は右のQRコードよりご覧いただけます。



＊ ＊ 高校トイレの洋式化・改修について ＊ ＊

和田 更級農業高校に伺いトイレを見たら、いまだに全てが和式トイレであり、中には改修されず使用できないトイレもあった。一棟のみの設置で、1階から3階全てを単年度でまとめて改修は困難な学校もあり、3か年程度に分割して工事を行わざるを得ない学校は、優先して工事に着手すべきと考えるが見解を伺う。

教育長 洋式率が低く整備対象トイレの数が多く、複数年にわたって改修工事を実施する学校は、優先して整備を着手する方針。複数フロアにまたがる改修を行う際、下層層と上層層で工事期間をずらし、棟全体でトイレが使用できない期間がないよう設定する。

＊ ＊ 長野県の歴史的資料について ＊ ＊

和田 古文書などの史資料は、建替えや空き家処分に伴う廃棄や、業者を通じた流出により散逸が続いている。県は史資料の散逸についてどのように捉えているのか。また、自治体では予算不足から重要資料の購入が難しい場合もあると聞く。史資料収集に必要な予算を増やすべき。

県民文化部長 古文書等の史資料の散逸を防ぐため、民間所有の地域資料の所在や分布等について、可能な範囲で調査を進めている。貴重な史資料の散逸防止に向けた取組を強化していく。歴史史資料の購入予算については、必要に応じてクラウドファンディングも活用している。史資料の散逸防止への理解と支援の広がりにつなげていく。

＊ ＊ 環境保全研究所安茂里庁舎について ＊ ＊

和田 県民の健康を守る重要な役割を担っているが、老朽化が進む安茂里庁舎は「健康危機管理の技術的拠点」にふさわしいとは言い難い。R10年度を目途に衛生部門を「地方衛生研究所」として独立させる予定だが、安茂里庁舎の移転・改修について検討し見通しを示してほしい。

健康福祉部長 老朽化や耐震性不足、立地的にも周辺に住宅が密集し、浸水想定区域に含まれるなど様々な課題がある。このため、全県から迅速に検体が搬送できること、また効率的に検査を行うための面積・動線の確保といった立地面の視点も踏まえ、移転も一つの選択肢として検討しており、速やかに見通しをお示しできるよう努めていく。

＊ ＊ 福祉医療制度について ＊ ＊

和田 新年度から精神障がい者の入院費も補助対象にすることは、県議団が質問を重ねてきたので歓迎するが、障がい者の福祉医療は一旦は窓口の支払で負担が大きく、実質的な負担感は解消されていない。必要な時はお金の心配なく受診できる、医療へのアクセスは人権として保障されるべき。現物給付化に向けて減額調整措置は県の障がい者福祉医療にどのような影響があるか。

知事 試算によれば年間で約13億円にも上る可能性があり大きな課題だ。現物給付化を進めるには国の減額措置の見直しが必須。県内市町村にも国に対して共に声をと呼びかけている。

